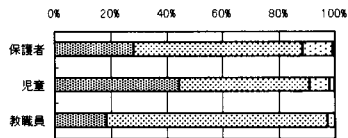


☑4-そう思う ☑3-どちらかといえば、そう思う ☐2-どちらかといえば、そう思わない ☐1-そう思わない

学校教育目標

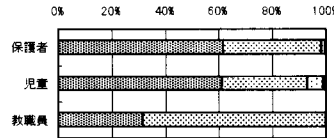
1 教育方針・目標の理解

学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



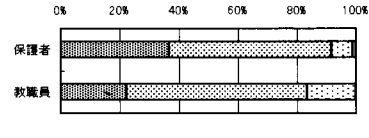
2 意欲的な学校生活

子どもは、楽しい学校生活が送れていると思いますか。



3 教師の連携協力

学校では、先生方が連携協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。

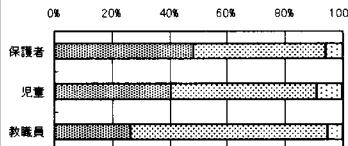


1「教育方針・目標の理解」については、学校教育目標を具現化した5つの「めざす子ども像」を設定し、去年に引き続き常時掲示し、また、校長講話など機会あるごとに語り続けてきたこともあり、意識付けがなされている。2「意欲的な学校生活」については、わかる授業づくりをしたり、45分になった昼休みに全員遊びなどを取り入れたりしてふれあう時間を確保したことで、楽しい学校生活を送れていることがうかがえる。3「教師の連携協力」については、学校・学年での連絡・連携を密にすることで、共通理解、共通実践を行ってきた。保護者にも教職員の連携が見えているようだ。今後とも学年会等の時間を確保し、教師の連携・協力を進めていきたい。

教科指導

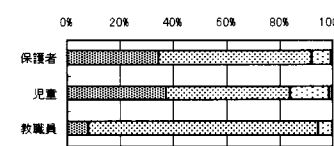
4 授業づくりの工夫

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。



5 意欲的な学習態度

子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

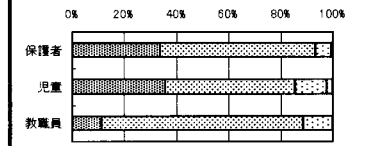


「教科指導」において、本年度も全員で研究授業に取り組み授業改善に努めてきた。そのことにより多くの児童や保護者が分かりやすい授業になっていると感じている。しかし意欲的に参加しているかについては、児童の評価が思ったより高くない。今後、導入や体験の活動を工夫し、児童が必要感を感じ主体的に学習に取り組む授業づくり、わかる・できる授業づくりを進めていくことが必要である。

総合的な学習の時間

6 総合的な学習の時間の充実

子どもは、総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいると思いますか。

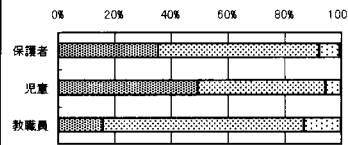


総合的な学習の時間においては、教職員が子どもにつけたい力を考え目標を設定し、児童が、目的をもって取り組めるようにした。さらに、自己評価、他者評価、教師からの評価を行い、自ら取り組んだことへの達成感を味わい、意欲的に取り組むことができたことと考える。

道徳教育 心の教育

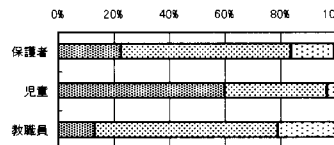
7 道徳、心の教育の充実

学校は、思いやりの心や感謝の心などを大切にしている心の教育の充実に取り組んでいると思いますか。



8 あいさつ、礼儀の励行

子どもは、あいさつがきちんとできていると思いますか。

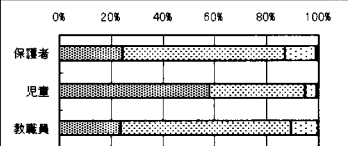


「道徳、心の教育」については、心の教育の充実において、保護者や児童の評価は高いが、実際のあいさつや礼儀の励行になると評価が下がっている。このことから、道徳の時間の学習が、道徳の実践力につながる取り組みになるように見直す必要がある。今後、心に響く授業づくりに努め、行事などとの関連を図り、効果的な指導に努めたい。特にあいさつにおいては、立ち止まってする「まごころあいさつ」が少しずつ定着している。来校者や地域からも、立ち止まってあいさつする子どもたちをほめていただくことが多い。そのことを保護者へも情報発信していきたい。

人権教育

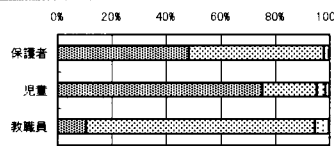
9 一人一人の児童の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしている指導や対応ができていると思いますか。



10 友達への思いやり

子どもは、友達となかよくしていると思いますか。

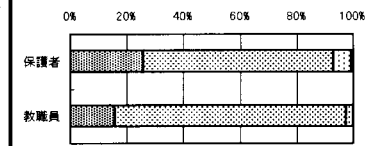


9「児童の尊重」において、教職員は児童にとって重要な言語環境の一つという認識のもと、人権教育の視点で教師自身の言動を律してきたこともあり、三者とも「そう思う」の評価が増えてきた。また、10「子どもは友達と仲良くしている」ことについては、1学期、2学期にハートフルウィークを設け人権教育を実施した。2学期の全校児童による集会ではその取り組みを学年ごとに発表し、仲間づくりに関する宣言もしてきたので、互いを大事にすることの大切さを学ぶことができた。今後も、児童一人一人を大切に、いろいろな機会をとらえて人権尊重の精神を育てていきたい。

特別支援教育

11 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

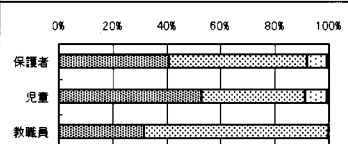


本校では、特別支援教育コーディネータを中心に支援体制を充実させてきた。保護者の評価も高い。今後、本校での支援体制を保護者に広く情報発信して、理解と協力を仰ぎたい。

生徒指導 教育相談

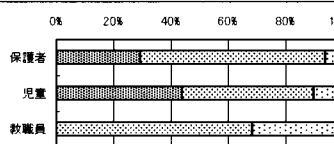
12 児童理解

先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとして努力していると思いますか。



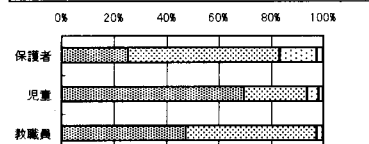
13 規範意識

子どもは、きまりやマナーを守っていると思いますか。



14 いじめや問題への対応

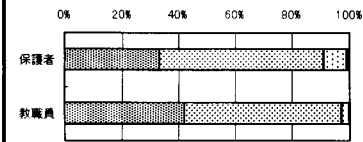
学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。



12「児童理解」や14「いじめや問題への対応」について、保護者・児童ともに「そう思う」が昨年比で増えている。これは、生活夕会等で児童について共通理解、共通実践してきたことやいじめや問題発生時に、教職員が連携して速やかに正確に誠意をもって対応することを心掛けてきたからだと思われる。今後、さらに児童との教育相談の場を設けたり、児童にしっかりと寄り添いながら、児童同士の間関係に心を配ったり、保護者と教職員や教職員間の連絡を密にしたりして、「いじめを許さない、見逃さない。」取り組みを進めていきたい。13「規範意識」においては、三者の意識のずれが大きい。そこには、児童の態度やあいさつがよくなくなってきているが、さらにろうかの歩行やトイレのスリッパの並べ方、名札の着用などが十二分に徹底できていなかったという教職員の反省がある。きまりやマナーについて共通理解を図り、家庭と学校で連携した指導を行う必要がある。

15 安全と事故防止

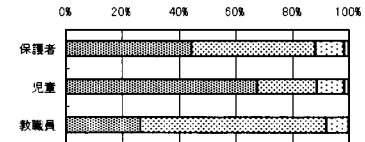
学校は、子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。



15 「安全と事故防止」について、本校では、交通安全教室を1年生、自転車教室を4年生で行い、PTAでも11月に交通安全教室を行った。また、特活等で交通安全や遊具の使い方の指導も行う、事故防止に努めている。また、保護者により、けがや病気について保護者へも情報発信をしている。16 「体力向上」については、本年度体力向上推進校として指定を受け、体育の授業の充実に取り組んできた。また、PTA保体委員会による毎週水曜日の「朝遊び」の取り組みや朝のランニングタイムがあり、外遊びが増えている。本年度から昼休みを45分間とり、全員遊びなど外に出る機会を増やしたり、体育日より保護者へ年2回情報発信したりしている。一方、外遊びやスポーツをあまりしていない児童もいるが、児童の体調や嗜好が関係すると思われる。今後、どの児童もその子なりに楽しく運動できる場を設定していきたい。

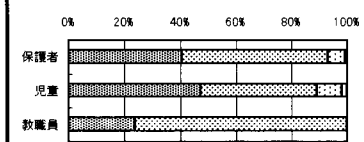
16 体力向上

子どもは、すすんで外遊びやスポーツをしていると思いますか。



17 学校行事への参加と工夫

学校では、運動会や学習発表会などの学校行事が工夫されていると思いますか。

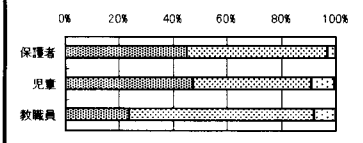


本年度は、初めて「ふれあいりんどう祭り」を行い、運動会同様日曜日に実施し、保護者や地域の方の多くの参加を得た。学校では、目標設定をし、評価カードを作り、目的意識や役割をはっきり認識させた。このことにより、児童は、主体的に取り組み、達成感を味わっていた。

学校環境

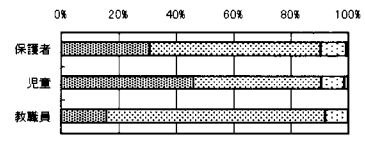
18 環境の整理・美化

学校では、校舎内外（花壇や掲示物など）がきちんと整理されていると思いますか。



19 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

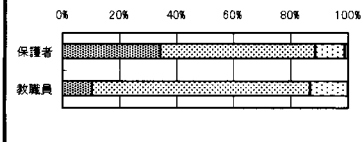


18 「環境の整備」については、児童と保護者は、ともに半数近くが高く評価している。花壇の手入れがなされ、花壇に草花が絶えなかったことや掲示物等が計画的になされたことなどが高い評価につながったものと考えられる。そこには、グリーンボランティアの方々の尽力も多大にある。今後とも校内外の整理整頓を進め、美しい学校づくりに努めたい。19 「施設・設備の安全管理」に対しては、耐震補強工事等があったが、おおむね高い評価がなされている。今後も、きめ細かく安全点検を行い、改善を要する点に対しては、早急に対応していくようにする。

情報の公開・発信

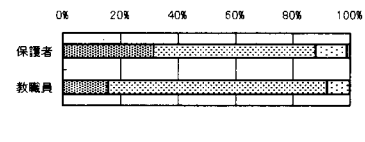
20 学校の予定等がわかる情報発信

学校からの文書等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。



21 教育活動への参加

学校が公開している教育活動（行事、授業等）は、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。

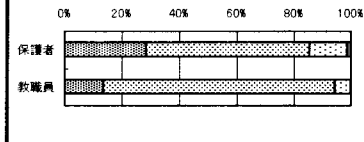


学校からは学校便りや学年通信、学級通信、保健便り、給食便りなど定期的に出される通信の他、文書やメールなどで学校行事や学習の様子等の情報を配信してきた。その結果、情報の発信については、多くの保護者から肯定的評価を得られた。また、行事や公開授業への参加についても、「ふれあいりんどう祭り」等を日曜日に行ったり、行事が同時期に集中しないように配慮したため、同様に肯定的な評価を多く得られている。今後、情報の内容や発信方法の工夫、ホームページでの積極的な公開等、開かれた学校づくりに進めていきたい。

家庭・地域との連携

22 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

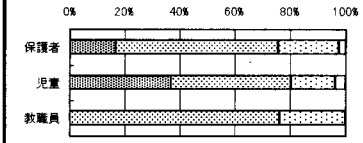


保護者やH.O.T.パトロール、グリーンボランティアの方にゲストティーチャーとして生活科や総合的な学習の時間に学習支援をしていただき、地域や保護者の協力を得て教育活動を進めることができた。また、2学期に学習支援員を募集し、活用することによって幅の広い活動ができてきた。今後も、こういった活動を続け、連携を深めていきたい。

言語活動

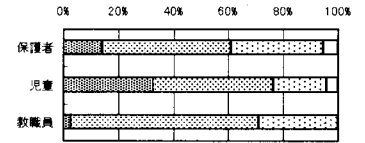
23 話す

子どもは、自分の考えや言いたいことを相手に話すことができていると思いますか。



24 話す

子どもは、授業中に考えを思いつかないときや理解できなかったときに「わかりません」と言えていると思いますか。

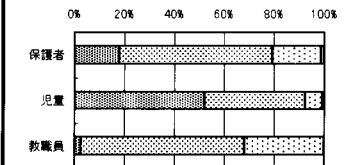


これまで授業における言語活動に視点をあて、一人一人に考えをもたせた上でペアや小グループ等による話し合い活動を積極的に取り入れてきた。このことにより自分の考えや思いを話す機会が増え、児童に話す力がついてきたと考える。しかし、一方で十分話せていないと感じている保護者や児童もあり、教職員の評価も厳しい。今後、児童が安心して思いを伝えることができる支持的な雰囲気づくりに努めるとともに、言語活動の充実を図りながら、授業改善を進めていきたい。

言語活動

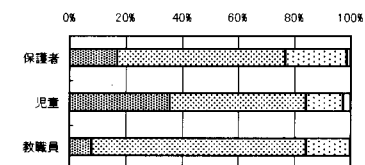
25 聞く

子どもは、相手の考えや言いたいことを聞くことができていると思いますか。



26 説明

子どもは、友だちが答えにこまっているときに、説明したり教えたりできていると思いますか。

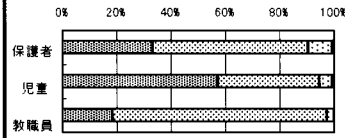


本校では、授業中の聞き方の指導のみならず、各行事や集会で、行事や集会の意義を伝え、態度を指導してきた。児童の聞き方は、よくなりつつある。今後、さらに聞き方がよくなるためには、話を聞くときの態度などを具体的に示していく必要がある。「説明」においては、授業中の言語活動の中に、説明の仕方を具体的に示しながら、自分の考えを話したり、視覚を話すようにしたり、教え合ったりする場を設けている。このことで、お互いを認め合う雰囲気づくりができつつある。

地域

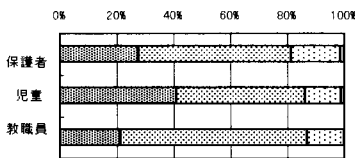
27 地域

子どもは、地域のことを好きだと思いますか。



28 地域との交流

子どもは、地域の人と挨拶したり、話したり、行事に参加したりして、関わっていると思いますか。

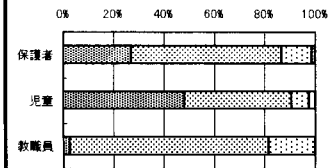


本校では、HOPパトロールやグリーンボランティア等地域の方とふれあう機会や地域・保護者の方に参加していただく体験的行事を多く取り入れてきた。また、「校区運動会」「どんどこや」「西原さくら祭り」等の地域行事も多く、地域との関わりも深い。このような取り組みを通して、児童は地域の一員としての自覚と喜びを感じてきている。一方、28「地域との交流」において、挨拶や会話、地域の行事への参加があまりできていないとする意見もあったことから、児童が積極的に地域へ関わろうとするような取り組みをしていく必要がある。今後、地域と学校がより一層連携をしながら、児童と地域をつなぐ取り組みを進めていきたい。

生活

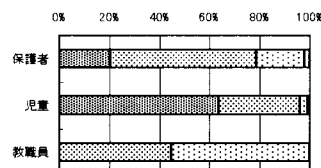
29 生活に役立てる

子どもは、学校で学習したことを、日ごろの生活に役立てることができていると思いますか。



30 ものを大切にする

子どもは、自分のものや学校のものを大切にしていると思いますか。



29「生活に役立てる」では、授業で身に付けた力が、生活科や総合的な学習の時間で生かされ、そこで培ったものが、また授業に生かされる相互補完の関係になるように計画を立て取り組んでいる。
30「ものを大切にする」について、多くの児童がものを大切にしていると思っているが、保護者や教職員は児童より厳しい評価をしている。学校での落し物が絶えないことや道具の片付けが十分でないこと等、保護者や教職員の側から見て課題だと感じているからだと思う。本年度は、持ち物に全て記名をしようと呼びかけてきたが、教職員の共通理解と一斉の実践力が弱かったと反省している。ものを大切にすることはどのようなことかということや、家庭や学校生活の中で具体的に児童に示していく必要がある。

来年度の具体的な取り組みについて

- 本年度の反省から、奨励点と課題点を明確にし、来年度に向けて次の点を踏まえ具体的な取り組みを計画していく。
- 「ふれあい給食」「ふれあいりんど祭り」「ふれあい発表会」等の学校行事と教科等を関連づけながら、体験的活動や言語活動を積極的に取り入れ、児童の生きる力を育てていく。
 - ①を踏まえ、学校行事や教育課程、年間計画を見直していく。
 - 教科と学校行事及び常時活動を関連させながら、次のような取り組みを行い、児童の学力向上、教職員の指導力向上を図っていく。
 - 学力検査等をもとに、実態把握と分析する。
 - 児童の特性に応じた指導過程や手立ての工夫をする。
 - モジュール学習や漢字・算数大会などを計画的に行い、基礎学力の定着を図る。
 - 教職員の指導力向上を目指した研修を実施する。
 - 全教育課程の中で、道徳性を培うための活動と児童の感性を育てる活動に取り組み、豊かな心の育成を図る。
 - 道徳授業の充実を図る。
 - 「ふれあい給食」等地域とふれあう場や全校児童によるハートフル集会等を通して、自他を大切にできる心情を育てる。
 - 「グリーンタイム」や「美化週間」、見学旅行や遠足等を実践の場として位置づけ、道徳的実践力を育てる。
 - 体育の授業と常時活動の充実を図り、児童の体力の向上を図る。
 - サーキットメニューの充実とそれを取り入れた授業構成の工夫により、基礎体力の向上を図る。
 - 「朝のランニングタイム」「西原ギネス」や各学級で取り組んでいる全員遊びを定着させる。
 - 週に1度行っているPTA朝遊びと連携し、児童が楽しみながら体力をつけていくことが出来るようにする。

学校関係者評価

- 学校環境が大変きれいになってきている。緑化活動等の取り組みが定着してきている成果である。
- 評価の結果から、子どもの笑顔や歓声が感じられた。実際に、楽しそうに下校する姿が見られるなど、日々の取り組みの成果が子どもの姿としてあらわれている。
- 子どもの評価が高いが保護者の評価が低いような項目は、指導が徹底できていない項目であると考え。担任も児童と一緒に走って朝のランニングに取り組むなど、日々の取り組みの積み重ねを大切にしてほしい。
- 来年度の方向性として、学力充実と行事と関連させていくことは、とても良いことである。来年度に向けて、しっかり取り組んでほしい。
- 子どもたちには、次の学年に励みをもって進級させてほしい。